



CSR Report

安全で持続可能な社会を実現するため、
IDECは歩み続ける。

藤田 俊弘
常務執行役員 技術戦略本部長
IDECグループ C.T.O.

IDECグループのCSR方針



IDECグループのCSR活動の詳細は、Webサイトでご覧いただけます。
<http://jp.idec.com/ja/aboutIDEC/csr>

国連グローバル・コンパクトの10原則

- 【人権】** 企業は、
1：国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
2：自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
- 【労働基準】** 企業は、
3：結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、
4：あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
5：児童労働の実効的な廃止を支持し、
6：雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
- 【環境】** 企業は、
7：環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
8：環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
9：環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
- 【腐敗防止】** 企業は、
10：強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

※国連グローバル・コンパクトとは、「企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み」です。

[安全への取り組み]

「安全性」と「生産性」を
高いレベルで両立させるために。

【安全基本方針】

IDECグループは、「人間性尊重経営」を前提として、「企業活動を通じて社会・経済に貢献する」という経営の基本方針に基づき、IDECグループだけでなくグローバル社会での安全で快適な環境づくりのため、すべての事業活動において常に高い安全性の実現を目指します。

セーフティリードアセッサの
知見を活かして
顧客サービスを行っています

福井 浩文
国内営業統括部
テック&サポートセンター
セーフティリードアセッサ
(制御安全・機械安全分野)



■代表的な安全・防爆機器製品

非常停止用押ボタンスイッチ X6シリーズ
第3世代の安全構造、セーフティポテンシャル構造を搭載した、世界最小クラスの非常停止用押ボタンスイッチです。

本質安全・耐圧防爆構造
タッチスイッチ付表示器 EX4R形
水素ガスを含むゾーン1,2の危険場所で使用可能なタッチスイッチ付表示器です。



X6シリーズ

EX4R形

■「安全をつくる」プロの育成

セーフティアセッサ有資格者の育成
社員のセーフティアセッサ資格*の取得を推進し、安全製品の開発・普及やコンサルティングにおいて、安全性の妥当性を適切に判断できる人材を育成しています。日本だけでなく中国やタイなどの海外拠点においても資格の取得を進めており、2016年3月31日現在のグループ全体での有資格者は367名となりました。

当社資格保有者数

セーフティリードアセッサ→14名	[第三者として安全性の妥当性を判断する総合力がある]
セーフティアセッサ→36名	[安全性の妥当性を判断する総合力がある]
セーフティサブアセッサ→157名	[安全性の妥当性確認に必要とされる基礎知識・能力がある]
セーフティベーシックアセッサ→160名	[機械運用安全または防爆電気機器安全の基礎知識を有する]

*セーフティアセッサ資格とは、日本認証(株)、(一社)日本電気制御機器工業会、安全技術応用研究会、テュフラインランドジャパン(株)の連携によって制度化された、機械安全の知識と能力を認定する資格制度です。

■「安全」の啓発活動

セミナー、講演会の実施
産業事故削減への貢献を目指し、「ものづくり安全セミナー」、「防爆安全セミナー」を開催しています。2016年3月期は全国で43回のセミナーを開催し、1,303名の方に参加いただき、累計受講者数は34,195名となりました。



[地球環境保護への取り組み]

事業を通じて、
環境負荷低減に貢献する。

【環境基本方針】

私たちは、地球環境と企業運営の関係において、地球との共生が人類共通の願いであることを認識し、事業活動のすべての面で、環境の保全を最重要課題として行動し、持続可能な発展を目指します。

住宅でのエネルギーマネジメント
システムの普及を通じて、
環境負荷低減に貢献します

大井 崇資
IDECシステムズ&コントロールズ株式会社
環境エネルギー事業統括部
スマートエネルギー事業部
開発部



[品質への取り組み]

全員で考え、全員で挑戦する。
「品質」はすべての企業活動の基本である。

【品質基本方針】

我が社が目標とする品質を「使いやすさ」におき、ユーザーに安心して購入し満足して使用していただける優れた製品と、これを最も経済的に作り出す技術を確保するため、全員で考え全員で挑戦する品質保証体制を築き、「品質のIDEC」を実現する。

安心と信頼を生む、
品質保証体制の
強化を進めます

井上 武士
品質保証センター
生産品質保証グループ



■地球環境保護につながるIDECの事業展開

再生可能エネルギーの普及促進への貢献

持続可能な社会を目指し、IDECグループとしてメガソーラーなど産業用太陽光発電設備の供給に加え、自家発電事業者となるなど、再生可能エネルギーの普及促進を行っています。また、住宅で使うエネルギーを「みえる化」し、最適制御するHEMSコントローラや、パワーコンディショナなどのエネルギーマネジメントシステムの提供により、エネルギーの無駄をなくし、省エネに貢献しています。



佐用・IDEC
中山太陽光発電所



HEMSコントローラ(左)と
パワーコンディショナ(右)

■IDECグループ開発ポリシー、評価基準

「省」の思想に基づいた製品開発活動

IDECグループでは、1978年の製品開発ポリシーの制定以来、製品開発における基本思想として、「省」に基づく最適制御の実現を掲げています。省エネルギー・省スペース・省メンテナンス・省資源など、あらゆる「省」の思想は現在も変わらず、独自の設計審査基準に基づいた新しい環境配慮型製品の開発に継続的に取り組んでいます。

環境配慮型製品の設計審査基準

配慮要素	製品構造
再利用 再資源化	再資源化容易性
	解体容易性
	廃棄処理容易性
省資源 省エネルギー	減容化・軽量化
	消費電力削減 長期使用対応
環境安全性	規制化学物質不使用

■環境負荷低減活動

ISO14001への取り組み

ISO14001環境マネジメントシステムに基づき年間の目標を定め、電力使用量、水使用量、紙使用量、廃棄物量、CO2排出量の削減に全社をあげて取り組んでいます。



※原単位は各年度の売上高当たりの使用量です。
※データ集計範囲は、本社/技術研究センター、筑波事業所、尼崎事業所、浜松事業所、福岡事業所、通野事業所、電野物流センターです。
※その他の環境パフォーマンス推移はwebサイトでご覧いただけます。

■品質保証体制

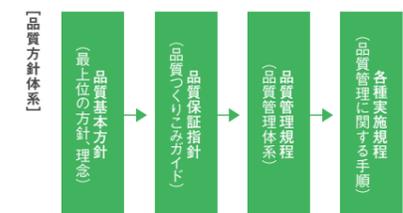
品質保証部門を中心とした保証体制を構築しています。

IDEC品質保証センター

- QA推進グループ**
全社的な品質保証体制の維持・改善と品質教育
- 生産品質保証グループ**
生産部の改革を支援
- 信頼性評価グループ**
妥当性評価、信頼性評価による製品の性能確認
- 規格管理グループ**
製品の認証、維持管理とサポート
- 技術標準グループ**
IDECの技術標準を維持・改善

■品質保証指針

IDECの「品質基本方針」は「製品の価値を品質におく」ことを基本姿勢とし、これを堅持・完遂するという精神を謳っています。この品質基本方針に基づき、お客さまが必要とする期間、信頼かつ十分に満足して、使用し続けられる品質の製品を提供するため、各段階において組織的に実行すべき品質保証活動の指針を定めています。



■品質教育

生産・開発を含めた全社の品質レベル向上のため、階層ごとにカリキュラムを設定する、体系的な品質管理研修を継続的にを行っています。学習成果の確認として公的資格(品質管理検定)の受験を推奨するとともに、習得した考え方や手法を実際のQCサークル活動で実践し、その活動の成果を事業所ごとの発表会や全社IDEC大会で発表するなど、品質の向上や工程改善に取り組んでいます。



QCサークル発表会

[人権・従業員への取り組み]

一人ひとりの人生にとって、
IDECが実り多い職場であるために。

【人財基本方針】

人事施策を展開するにあたっては、その根底に「人間性尊重」の精神をもって行い、人財が育つ風土を確立する。経営基本方針の意図・内容を十分に理解し、それを実践・体現することによって、個々の使命・責任を果たすことのできる人財を育成する。



個々の多様性を尊重し、
誰もが働きやすい
職場を目指します

矢能 泰子
IDECロジスティクスサービス株式会社
管理グループ

[コーポレートガバナンス/コンプライアンス]

より透明に。より効率良く。
信頼される企業であり続けるために。

【コーポレートガバナンス・ポリシー】

IDECグループでは、株主さまをはじめとするステークホルダーに対して、経営の透明性ならびに効率性を確保することをコーポレートガバナンスの基本と考え、企業価値の向上を実現するために、コーポレートガバナンスのさらなる強化を推進します。



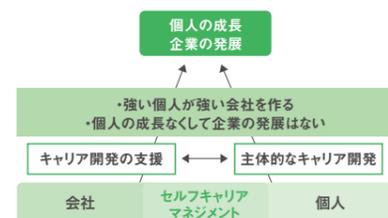
ステークホルダーの信頼に
応えるため、コンプライアンスの
徹底に努めます

南 生樹
経営管理部 経営企画グループ
法務担当



■人財育成

社員自らが考えるキャリアプランに沿った学習や経験ができるよう、体系的な研修とキャリアローテーションを実施し、個人のキャリア開発を支援しています。IDECでは、求める人財像として「チャレンジ精神」、「チームワーク」、「自己研鑽」の3つを掲げ、社員自らが自己成長に積極的に取り組むとともに、会社も積極的にキャリア開発の機会を提供しています。



■ライフ・ワーク・バランスの推進

育児や介護をしながら働いている社員を皆で支え合う制度を充実させ、すべての社員が安心して働ける基盤を整えており、2016年3月期の女性従業員の育児休業取得率、育児休業復帰率はともに100%となりました。また、2017年3月期より、介護や家族を看護するための休暇の半日単位取得や、介護休業の3回までの分割取得を可能にしました。今後も家庭と仕事の両立支援に取り組んでいきます。

【出産・育児に関する諸制度】

妊娠	出産	1歳	
つわり、産院に関する措置	産前・産後休暇	育児時間(3歳まで) 育児短時間勤務(小学3年まで) 育児時差勤務 子ども・家族の看護休暇 所定外労働の免除 時間外労働の制限	小学校卒業

■ダイバーシティの推進

国籍や性別を問わず優秀な人財の採用を進めるとともに、外国人技能実習生を受け入れるなど、IDECグループとしてダイバーシティを推進しています。また、グループ会社のIDECロジスティクスサービス株式会社では、障がい者の雇用と定着に積極的に取り組んでおり、2016年3月31日現在で16名の障がい者が就業しています(障がい者雇用率9%)。国籍や性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、多様な人財が活躍できる会社を目指しています。



日本人の従業員とともに働くベトナム人の技能実習生

■ガバナンス体制

1998年より執行役員制度を導入し、経営の業務執行機能と監督機能の分離を図り、効率的な経営を目指しています。また、社外取締役や社外監査役を積極的に選任、任用し、業務執行に対する監督・監査機能を強化しています。このようなコーポレートガバナンスに対する考え方や運営方針を周知するため、2016年2月にIDECコーポレートガバナンス・ポリシーを制定しました。

■グローバルアドバイザリーボード

事業運営に資する幅広いご意見・ご助言を得るため、社外取締役や企業経営者など国内外の有識者からなるグローバルアドバイザリーボードを設置しています。

ボードメンバーのRomano Volta 氏イタリアにおいて、工業オートメーション用光電装置などの分野で世界的リーディングカンパニーとなるDATALOGIC社を創業。



■コンプライアンス

職務を行ううえでの基本的な考え方や行動の指針を「行動基準」にまとめ、国内外グループ会社を含め広く従業員に配布しています。また新入社員から管理職まで入社年数や職責・階層に応じた研修体系を整備し、定期的な研修を実施しています。2015年3月期には内部通報関連規程、ハラスメント関連規程の見直しにともない、行動基準の補訂版を配布し、周知しています。



■監査体制

経営目標達成への貢献を目的に、合法性と効率性の観点から、公正かつ独立な立場で経営諸活動の状況の評価・支援しています。重点取り組み事項として、リスクのマネジメント、コントロールおよび組織体のガバナンスプロセスの有効性の評価改善提案とその支援を行っています。また、IDECグループの財務報告の信頼性確保にかかる内部統制の整備運用状況について、独立した視点で評価を実施しています。

